

事業実施報告

令和元年度入学生の2年次修了時の意識調査の報告書

目次

I. 調査概要	1
II. 基礎的項目	2～
III. 大学2年間における学びの成果	4～
1. 卒業後の就職に関する意識	
2. 「大分を創る科目」の履修による意識	
IV. 授業形式に関する意識	14～

I. 調査概要

1. 事業趣旨

COC+事業は、大分県内大学等及び企業・自治体等との実質的かつ機動的な連携・協働体制の下で、大分を創る人材を育成する教育の充実と、より高度な地域創生教育のカリキュラムを新規に構築・実施することにより、地域志向の意欲と態度を醸成し、地域課題を解決し、地域創生の牽引者として活躍できる人材の育成を目指すことを目的としている。その取組をとおして、大分県地域においてリーダーシップや業種を超えた異分野連携力を発揮し、大分県の経済社会の活性化に貢献できる「時代を切り開くイノベーション能力を持った人材」を育成するものである。

このことへの取組を推進するために、COC+事業の令和元年度入学生を対象にした入学時の意識調査を行うとともに、今回、2年次修了時における調査を行って、2年間の学びの効果に関する分析を行い、今後の授業改善や就職に関する支援・状況把握等の考察を行うものである。

2. 調査実施時期：令和2年12月～令和3年2月

3. 調査方法

学部ごとに、令和元年度入学生全員が対象となるように学部で調査実施科目を設定して、COC+推進機構と教育支援課が直接実施した。

4. 調査回収数：507名／1,148名（令和2年5月1日在籍学生数）

（回答率：44.2%）

教育学部：80名 経済学部：158名 医学部：42名 理工学部：178名
福祉健康科学部：49名

5. 調査項目

（1）基礎的項目

学年、性別、所属学部、出身地域（出身高校）

（2）大学2年間における学びの成果

- ①卒業後に就職したい業種に関することについて
- ②卒業後の就職先の選定に関することについて
- ③教養教育科目「大分を創る科目」について
- ④授業を受講して「良かった」と感じる授業形式について

II. 基礎的項目

図Ⅱ－①は、調査対象学年である学部ごとの回答数の割合を示したものである。

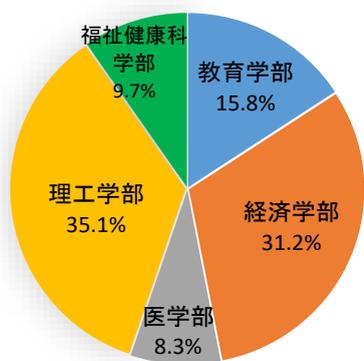
回答割合から見ると、理工学部が35.1%と最も多く、次いで、経済学部が31.2%、教育学部が15.8%、福祉健康科学部が9.7%、医学部が8.3%となっている。

図Ⅱ－②は、回答における男女の回答状況を示したものである。男子学生296名に対して、女子学生211名からの回答を得ている。学部別の男女比では経済学部が87/71であるのに対して、理工学部では151/27、と男子学生からの回答が多く、一方で、教育学部、医学部、福祉健康科学部では29/51、16/26、13/36と女子学生からの回答が多い。

II. 基礎的項目

図Ⅱ－① 調査対象学年である学部ごとの回答数の割合

学部ごとの回答数(N=507)

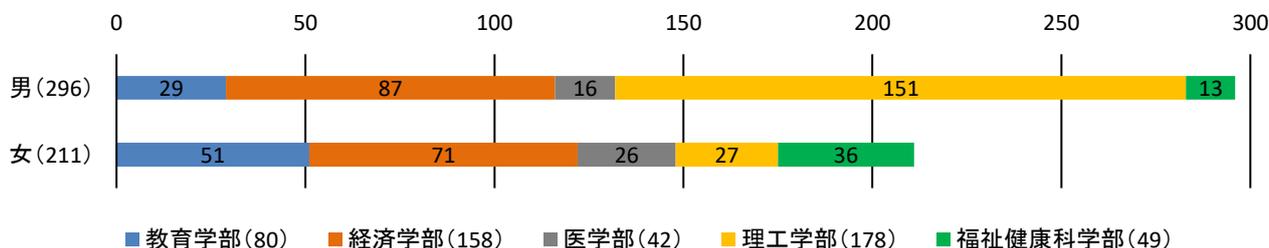


	令和2年度	前年比
教育学部	15.8%	▼0.2%
経済学部	31.2%	△14.2%
医学部	8.3%	▼8.9%
理工学部	35.1%	▼3.2%
福祉健康科学部	9.7%	▼1.8%
合計	100.1%	△0.1%

図Ⅱ－② 性別の各学部の人数の割合を示したものである。

性別から見る学部人数(N=507)

(人)

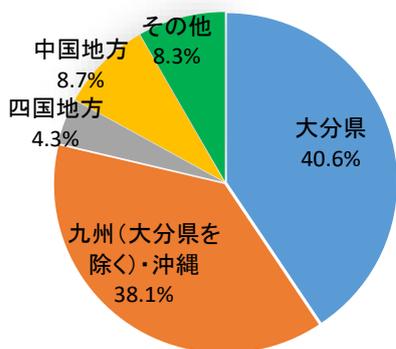


	教育学部 (80)		経済学部 (158)		医学部 (42)		理工学部 (178)		福祉健康科学部 (49)		合計 (507)	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
男	29	▼32	87	△15	16	▼45	151	▼90	13	▼20	296	▼172
女	51	▼26	71	▼3	26	▼61	27	▼60	36	▼30	211	▼180

図Ⅱ－③は、回答における出身高校所在別の様子である。大学全体では大分県が40.6%（41.3%）、大分県以外の九州・沖縄が38.1%（34.9%）となっており、九州以外の地域として四国地方が4.3%（4.5%）、中国地方が8.7%（9.2%）、その他が8.3%（10.0%）となっている（括弧内は昨年度調査の数字）。学部別では、大分県の高校出身者では、教育学部が53.8%、医学部45.2%、経済学部43.0%、理工学部36.0%、福祉健康科学部24.5%となっている。本年度の回答については、例年に比べて、教育学部において大分県出身者の割合が増加しており、一方、教育学部を除く全ての学部では減じている。

図Ⅱ－③ 令和2年度入学生の出身地域（出身高校）別の割合

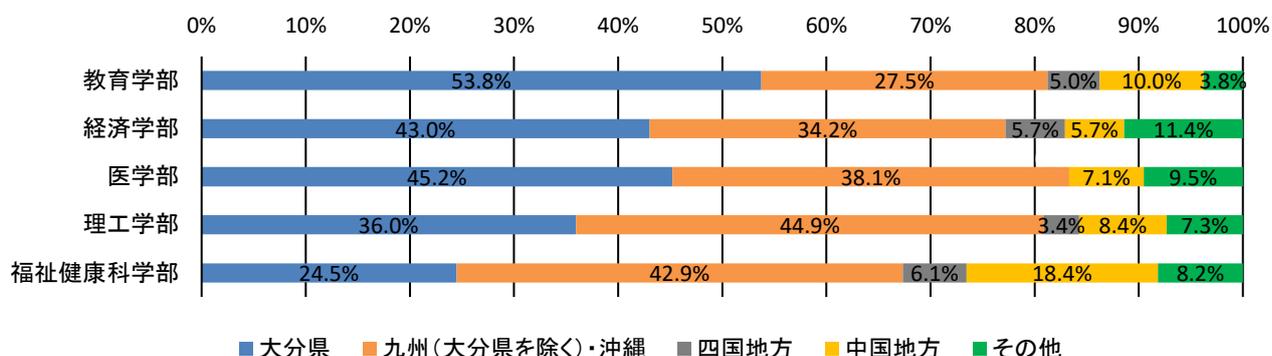
出身地域の状況(N=507)



	令和2年度	前年比
大分県	40.6%	▼0.7%
九州(大分県を除く)・沖縄	38.1%	△3.2%
四国地方	4.3%	▼0.2%
中国地方	8.7%	▼0.5%
その他	8.3%	▼1.7%

図Ⅱ－④ 学部別の出身地域（出身高校）別の割合

学部別の出身地域(N=507)



	大分県		九州(大分県を除く)・ 沖縄		四国地方		中国地方		その他	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
教育学部	53.8%	△15.4%	27.5%	▼3.7%	5.0%	▼1.5%	10.0%	▼1.6%	3.8%	▼8.5%
経済学部	43.0%	▼1.5%	34.2%	△2.0%	5.7%	△0.2%	5.7%	▼5.3%	11.4%	△4.6%
医学部	45.2%	▼1.7%	38.1%	△9.5%	0.0%	▼4.1%	7.1%	△3.0%	9.5%	▼6.8%
理工学部	36.0%	▼5.2%	44.9%	△5.9%	3.4%	0.0%	8.4%	△0.2%	7.3%	▼0.9%
福祉健康科学部	24.5%	▼9.2%	42.9%	△3.1%	6.1%	△1.0%	18.4%	△5.1%	8.2%	0.0%
合計	40.6%	▼0.8%	38.1%	△3.2%	4.3%	▼0.3%	8.7%	▼0.4%	8.3%	▼1.7%

Ⅲ. 大学2年間における学びの成果

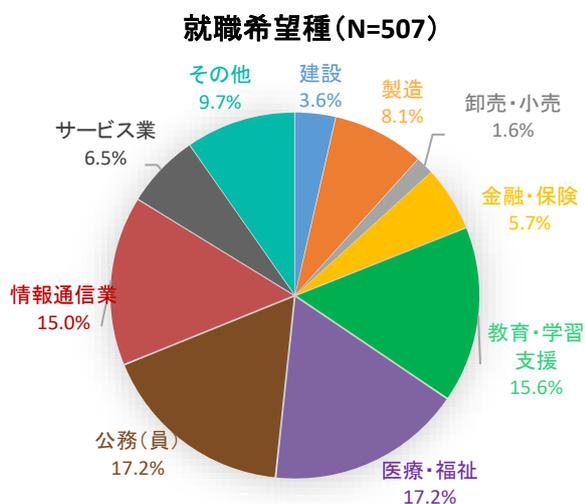
1. 卒業後の就職に関する意識

図Ⅲ-1-①は令和元年度入学の学生の2年次時点での希望職種を示したものである。公務員希望の学生の割合が昨年度は2.4%の減であったのに対し、今年度は2.8%増加している。

また、大分県内への就職希望者については、入学時から希望している、希望するようになった、どちらかといえば希望するようになった学生の割合は34.5%であり、参考にあるように、入学時点での希望の状況(希望する17.8%、どちらかといえば希望する10.9%、計28.7%)よりは希望する学生の割合は増加している。2年次時点での希望者割合は昨年度調査と比較すると6.0%減少している。一方で、入学時点との比較で、2年時点では、どちらかといえば希望しない、希望しない学生の割合(50.5%)は増加している(入学時27.4%)。昨年度の状況と比べて、県内就職を希望しない学生の割合の方が、希望する学生の割合よりも多い状況にある。入学当時42.0%の学生が未定であった学生が学年進行に合わせて自身の就職先に対するイメージを明確化させてきている中で、15.0%の学生が2年生時点で未定(昨年度の比較では1.6%減)となっており、こういう学生を今後どのように、県内就職への意欲をもたせるかが引き続き重要になってくる。

各部別の状況では、教育学部の県内就職希望(どちらかといえば希望する、まで)60.1%が最も高く、ついで医学部47.7%、福祉健康科学部36.7%、経済学部34.2%、理工学部19.7%の状況であり、出身高校所在地の割合と比較すると、教育学部、福祉健康科学部では、その割合を超えて大分県への就職を考えているものの、医学部ではその出身割合と同程度、経済学部においては出身割合から下回る希望となっている。また、理工学部では昨年比にして13%近く減じている状況であるが、この点についても本年度の回答における理工学部の県内出身者が昨年度比5%減になっていることも配慮して把握しておくことが必要である。

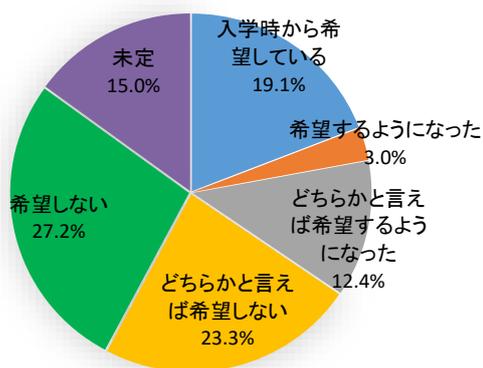
図Ⅲ-1-① 就職を希望する業種の割合



	令和2年度	前年比
建設	3.6%	▼1.8%
製造	8.1%	▼4.6%
卸売・小売	1.6%	△0.4%
金融・保険	5.7%	△2.9%
教育・学習支援	15.6%	▼0.6%
医療・福祉	17.2%	▼8.7%
公務(員)	17.2%	△2.8%
情報通信業	15.0%	△6.8%
サービス業	6.5%	△2.4%
その他	9.7%	△0.7%

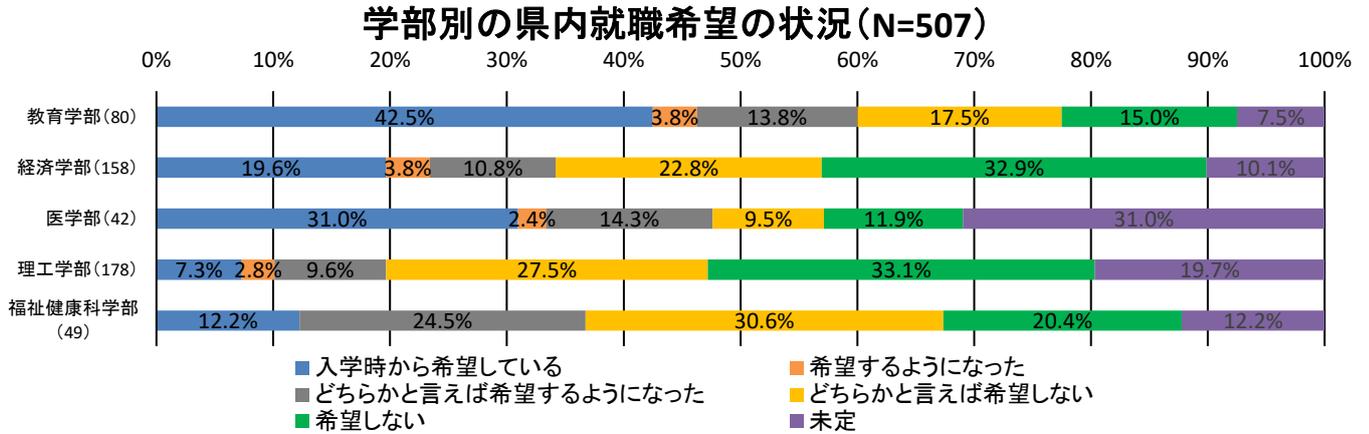
図Ⅲ-1-② 大分県内への就職希望者の割合

大分県内就職希望者(N=507)



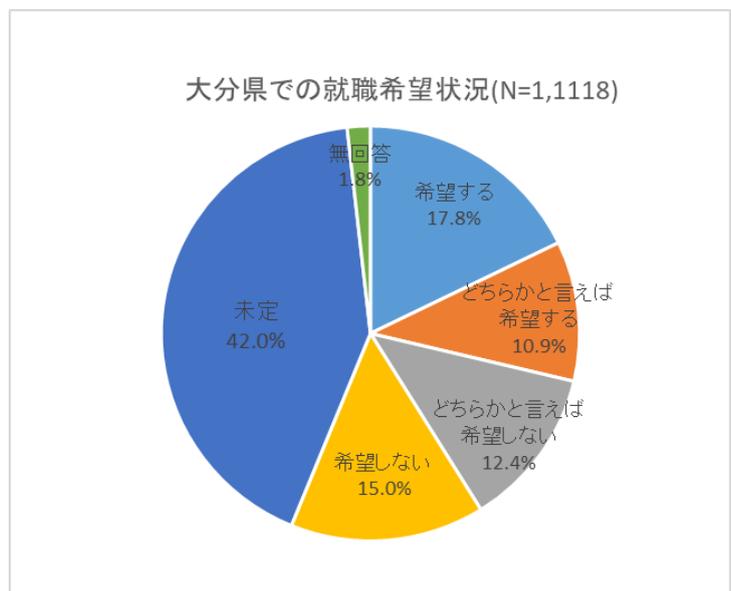
	令和2年度	前年比
入学時から希望している	19.1%	▼0.6%
希望するようになった	3.0%	▼2.0%
どちらかと言えば希望するようになった	12.4%	▼3.4%
どちらかと言えば希望しない	23.3%	△5.4%
希望しない	27.2%	△2.3%
未定	15.0%	▼1.6%

図Ⅲ-1-③ 学部別の県内就職希望の割合

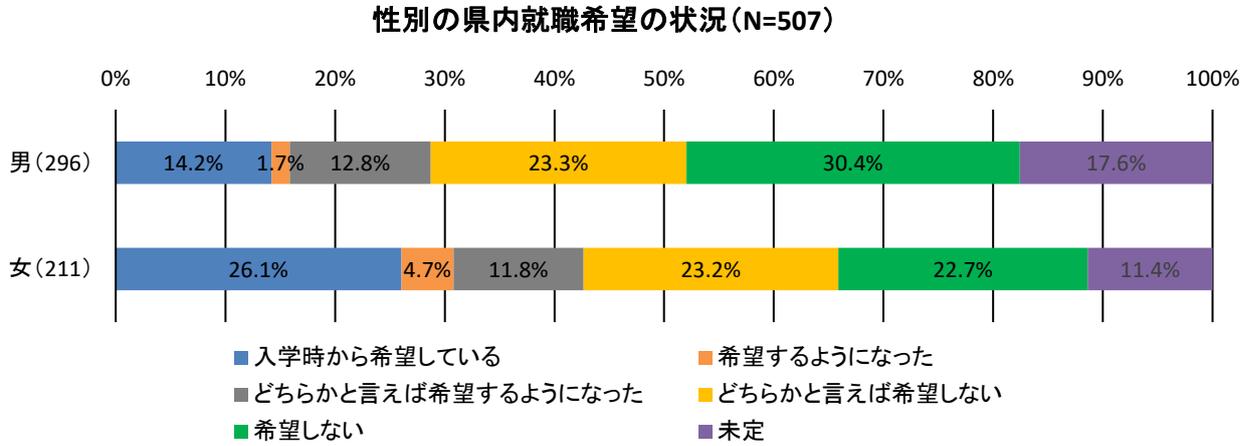


	入学時から希望している		希望するようになった		どちらかと言えば希望するようになった		どちらかと言えば希望しない		希望しない		未定	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
教育学部(80)	42.5%	△12.1%	3.8%	▼2.7%	13.8%	△0.8%	17.5%	△3.0%	15.0%	▼11.1%	7.5%	▼1.9%
経済学部(158)	19.6%	▼0.3%	3.8%	▼2.4%	10.8%	△7.0%	22.8%	△4.3%	32.9%	△8.2%	10.1%	▼2.9%
医学部(42)	31.0%	△1.9%	2.4%	▼0.3%	14.3%	△1.5%	9.5%	▼10.8%	11.9%	▼5.0%	31.0%	△12.8%
理工学部(178)	7.3%	▼4.0%	2.8%	▼2.7%	9.6%	▼6.0%	27.5%	△9.2%	33.1%	△5.0%	19.7%	▼1.4%
福祉健康科学部(49)	12.2%	▼6.2%	0.0%	▼3.1%	24.5%	△2.1%	30.6%	△14.3%	20.4%	▼4.1%	12.2%	▼3.1%
合計(507)	19.1%	▼0.6%	3.0%	▼2.0%	12.4%	▼3.5%	23.3%	△5.4%	27.2%	△2.3%	15.0%	▼1.7%

<参考> 令和元年度入学生の入学時調査

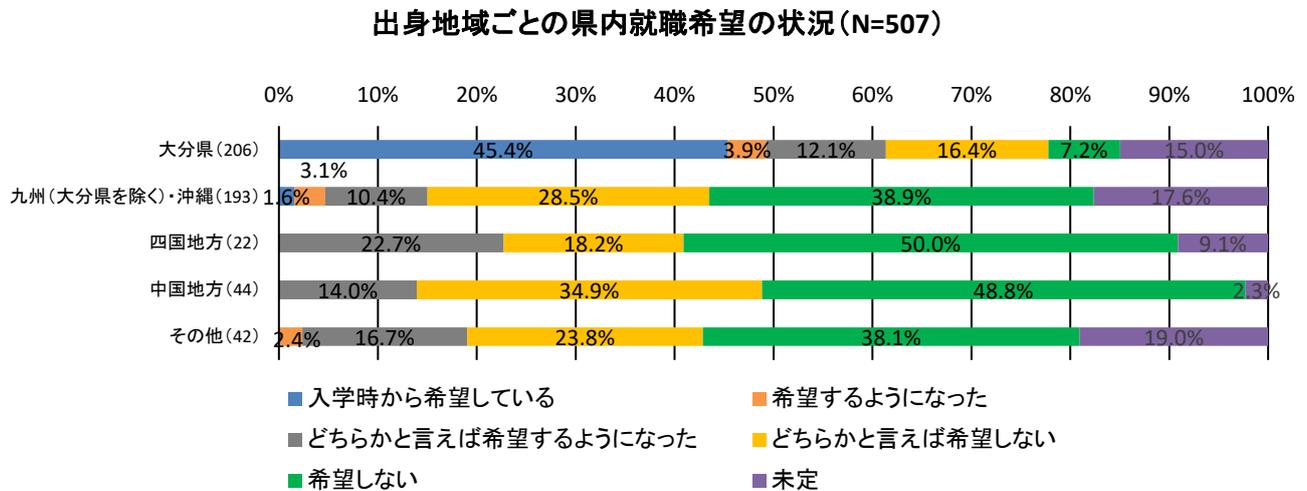


図Ⅲ-1-④ 性別の県内就職希望の割合



	入学時から希望している		希望するようになった		どちらかと言えば希望するようになった		どちらかと言えば希望しない		希望しない		未定	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
男(296)	14.2%	▼1.8%	1.7%	▼3.6%	12.8%	▼3.4%	23.3%	△5.4%	30.4%	△6.5%	17.6%	▼2.9%
女(211)	26.1%	△2.0%	4.7%	△0.1%	11.8%	▼3.6%	23.2%	△5.5%	22.7%	▼3.5%	11.4%	▼0.7%

図Ⅲ-1-⑤ 出身地域ごとの県内就職希望の割合



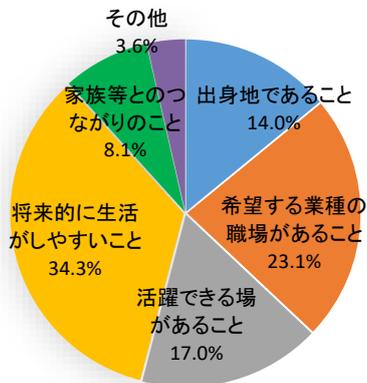
	入学時から希望している		希望するようになった		どちらかと言えば希望するようになった		どちらかと言えば希望しない		希望しない		未定	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
大分県(206)	45.4%	△1.0%	3.9%	▼1.5%	12.1%	▼0.9%	16.4%	△5.4%	7.2%	▼1.0%	15.0%	▼3.1%
九州(大分県を除く)・沖縄(193)	1.6%	▼0.4%	3.1%	▼3.3%	10.4%	▼8.7%	28.5%	△4.8%	38.9%	△8.5%	17.6%	▼0.8%
四国地方(22)	0.0%	▼2.6%	0.0%	▼2.6%	22.7%	▼3.6%	18.2%	△7.7%	50.0%	△7.9%	9.1%	▼6.7%
中国地方(44)	0.0%	▼3.8%	0.0%	▼2.5%	14.0%	▼6.3%	34.9%	△13.4%	48.8%	△4.5%	2.3%	▼5.3%
その他(42)	0.0%	▼2.3%	2.4%	△0.1%	16.7%	△9.7%	23.8%	▼1.8%	38.1%	▼10.7%	19.0%	△5.0%

図Ⅲ-1-④、図Ⅲ-1-⑤は県内就職希望の状況を性別、出身地域ごとに確認したものである。昨年度と同様に女子学生の県内就職希望の割合が高く、男子学生に2年次でも未定の学生が多い状況が見取れる。また、大分県下の高校の出身者の県内就職希望は6割を超えている。また昨年度は、九州・四国・中国地方出身者の県内就職希望について2割を超えていたが、本年度の回答では、四国出身のみ2割を超える結果となった。また、「どちらかといえば希望するようになった」と回答した学生は県内出身学生よりも、四国・中国・その他地域の出身者の方が多い状況が分かる。更に、その他地域の学生については、本年度の回答では大分への就職の希望学生が昨年度に比べて増加（昨年度はどちらかといえば希望するようになったという回答までの学生の割合が11.6%）し、また、希望しないと回答している学生の割合が減少し38.1%（昨年度48.8%）という状況である。

就職を考える際に、地域選択の観点で意識をしている内容について整理したものが図Ⅲ-1-⑥である。昨年とほぼ同様に、地域選択の観点から選択された項目は、生活のしやすさ、希望の業種の職場の存在、活躍できる場があることと出身地の順になっている。将来的な生活のしやすさを挙げている学生の割合は減少しているものの、最も高い割合となっている（昨年と比べて4.6%減）。また、企業・職場を選ぶ条件で特に大切にしたいこと（図Ⅲ-1-⑦）では、働きがい、職場の雰囲気、給与/年収、事業内容が上位にある。昨年度と比較して給与/年収、企業等の安定性、福利厚生が下がり、働きがいの割合が大幅に増えている。

図Ⅲ-1-⑥ 就職する地域を選ぶ時に特に大切にしたいこと

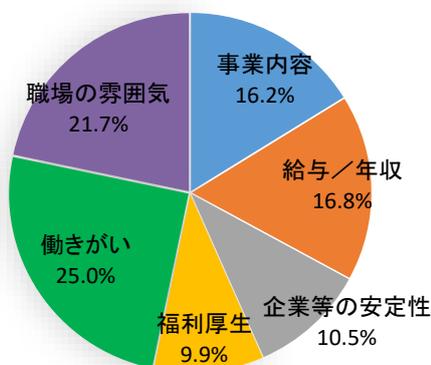
就職する地域を選ぶ時に特に大切にしたいこと(N=507)



	令和2年度	前年比
出身地であること	14.0%	△0.1%
希望する業種の職場があること	23.1%	△2.3%
活躍できる場があること	17.0%	△3.1%
将来的に生活しやすいこと	34.3%	▼4.6%
家族等とのつながり	8.1%	0.0%
その他	3.6%	▼0.8%

図Ⅲ-1-⑦ 企業・職場を選ぶ条件で特に大切にしたいこと

企業・職場を選ぶ条件で特に大切にしたいこと
(N=507)



	令和2年度	前年比
事業内容	16.2%	△2.6%
給与/年収	16.8%	▼10.3%
企業等の安定性	10.5%	▼1.6%
福利厚生	9.9%	▼4.5%
働きがい	25.0%	△11.4%
職場の雰囲気	21.7%	△2.5%

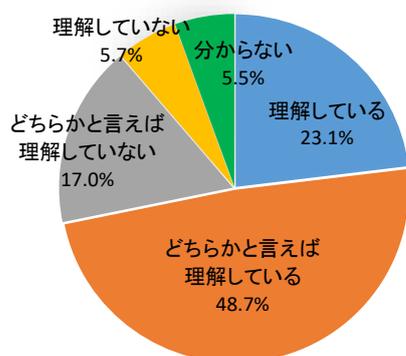
2. 「大分を創る科目」の履修による意識

「大分を創る科目」の履修に関する意識の確認の状況について調査したところ、71.8%がその趣旨について理解していると回答しており、その割合は昨年より(15.4%)増加している(図Ⅲ-2-①)。また、その履修状況については、複数科目履修したという回答は65.9%で、昨年と比べて20.5%増、一方1科目履修の回答は20.3%で前年と比べて約10%減となった。分からないという回答は10.3%で(昨年比4%)減少し、履修していないという回答も3.6%と(昨年比5.7%)減少している。総数に占める割合としてはこの両回答の占める割合が減少傾向にあり、昨年と比べ、全体的な傾向として、「大分を創る科目」として意識して履修している学生の割合が増加傾向にあると思われる。

2. 「大分を創る科目」の履修による意識

図Ⅲ-2-① 「大分を創る科目」の趣旨の理解度について割合

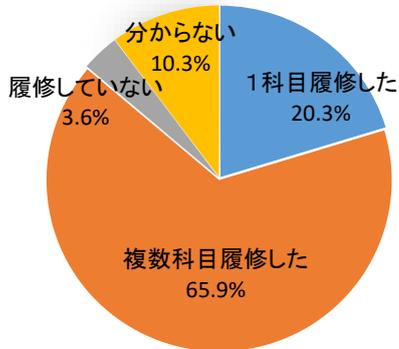
大分を創る科目の趣旨の理解
(N=507)



	令和2年度	前年比
理解している	23.1%	△4.9%
どちらかと言えば理解している	48.7%	△10.5%
どちらかと言えば理解していない	17.0%	▼6.8%
理解していない	5.7%	▼4.6%
分からない	5.5%	▼4.0%

図Ⅲ－２－② 「大分を創る科目」の履修状況に関する割合

大分を創る科目履修科目数
(N=507)

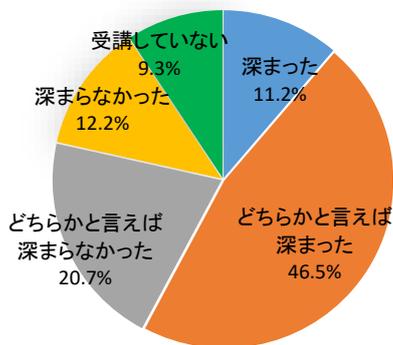


	令和2年度	前年比
1科目履修した	20.3%	▼10.3%
複数科目履修した	65.9%	△20.5%
履修していない	3.6%	▼5.7%
分からない	10.3%	▼4.4%

図Ⅲ－２－③「大分を創る科目」の履修による大分に就職することについての知識・理解・興味の深まりについて割合については、57.7%の回答が深まったと回答しており、昨年と比べて10.0%増加している。深まらなかったという回答は32.9%で昨年(40.8%)より減少、また受講していないという回答は9.3%と減じており、科目履修による大分に就職することについての知識・理解・興味を引き起こす効果がもたらされていると思われる。科目履修数との関係(図Ⅲ－２－④)については、昨年とは変わって、複数科目履修の回答のほうが知識・理解・興味の深まりが増したと回答している割合が高く(複数65.1%、1科目57.7%)になっている。

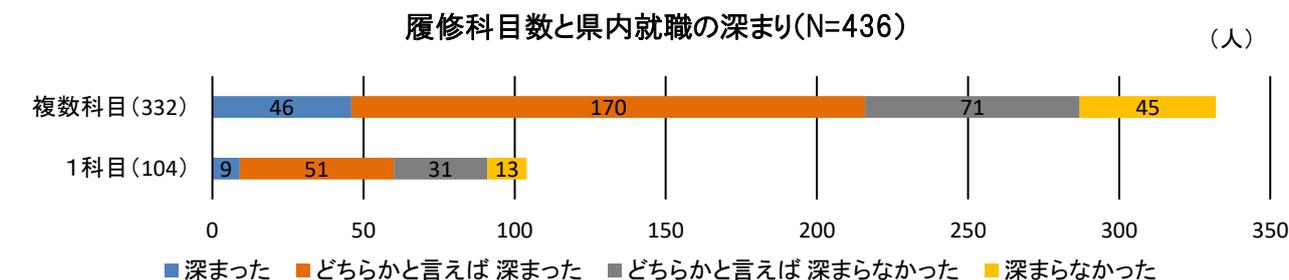
図Ⅲ－２－③ 「大分を創る科目」の履修による大分に就職することについての知識・理解・興味の深まりに関する割合

大分を創る科目の履修による大分に就職するための知識・理解・興味の深まり(N=507)



	令和2年度	前年比
深まった	11.2%	▼3.0%
どちらかと言えば深まった	46.5%	△13.0%
どちらかと言えば深まらなかった	20.7%	△1.8%
深まらなかった	12.2%	▼9.7%
受講していない	9.3%	▼2.1%

図Ⅲ－２－④ 「大分を創る科目」の履修科目数による、大分に就職することについての知識・理解・興味の深まりに関する割合

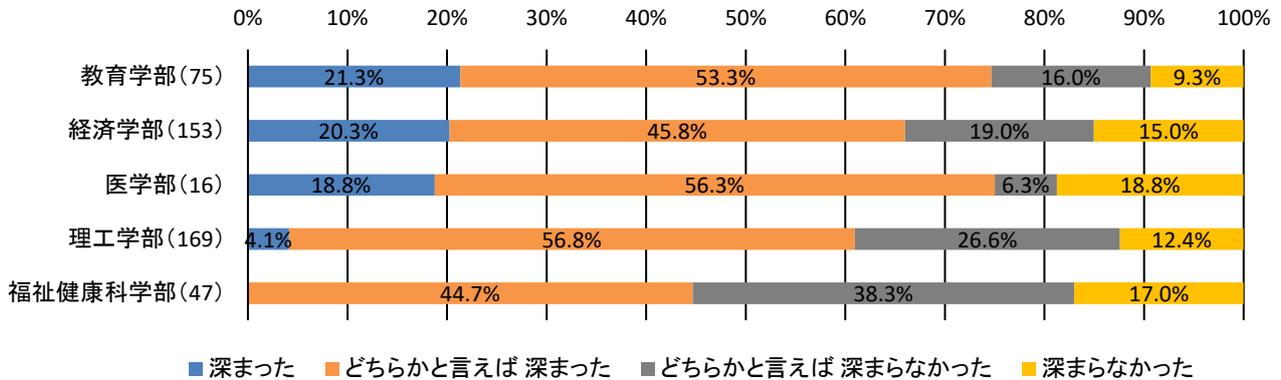


	深まった		どちらかと言えば深まった		どちらかと言えば深まらなかった		深まらなかった	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
複数科目(332)	46	△10	170	△8	71	▼28	45	▼44
1科目(104)	9	▼68	51	▼45	31	▼6	13	▼35

大分に就職するための知識・理解・興味の深まりに関する割合について学部別の状況を示したものが、図Ⅲ－２－⑤である。科目履修による興味の深まりについて深まったという回答は、医学部75.1% (45.2%)、教育学部74.6% (64.2%)、経済学部66.1% (61.0%)、理工学部60.9% (48.6%)、福祉健康学部44.7% (55.1%)、の順になっている。福祉健康科学部については昨年度の回答から10.4%程度減ずる結果となっている。一方で医学では昨年度比約30%の増であった。複数科目の履修にかかわる県内就職希望の状況については、県内への就職希望回答は複数科目36.0%、単一科目27.9%、と複数科目の方が高いが、どちらかといえば希望するようになったという回答割合は複数科目、単一科目でそれぞれ13.5%、12.5%とほぼ同水準である。また、図Ⅲ－２－⑦ 県内就職希望と大分に就職することについての知識・理解・興味の深まりについての調査では、希望するようになった、あるいはどちらかといえば希望するようになったという学生について、どちらかといえば深まったという回答した学生の割合が76.9%、70.0%と高く、履修による県内就職への知識・理解・関心を高める効果が示唆されている。また、本年度は、未定の学生で同回答への割合は44.3%と増加し(昨年度31.7%)、これらの学生について2年時点での県内就職への関心向上への効果は昨年の学生と比して高まっていると思われる。また、希望するからどちらかといえば希望するまでの学生の間では、履修によって知識・理解・関心が深まったという学生の割合はそれぞれ8割を超えている

図Ⅲ－２－⑤ 学部ごとの大分に就職するための知識・理解・興味の深まりに関する割合

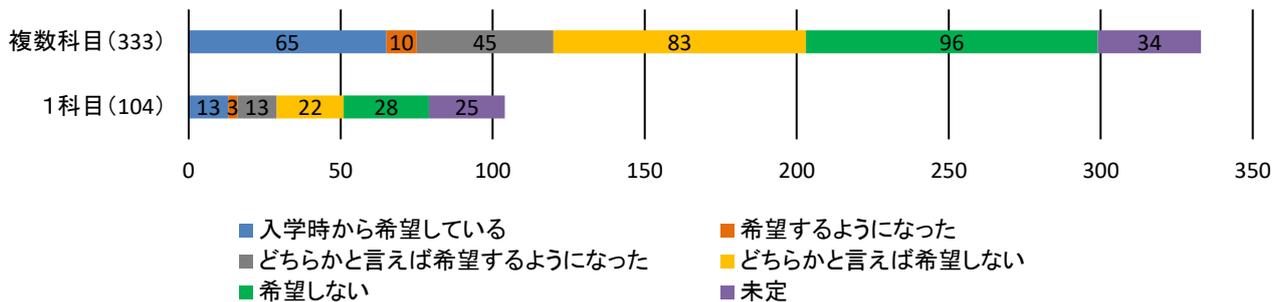
学部ごとの大分に就職するための知識・理解・興味の深まり(N=460)



	深まった		どちらかと言えば深まった		どちらかと言えば深まらなかった		深まらなかった	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
教育学部(75)	21.3%	△2.3%	53.3%	△8.1%	16.0%	△0.1%	9.3%	▼10.5%
経済学部(153)	20.3%	▼1.0%	45.8%	△6.1%	19.0%	△2.0%	15.0%	▼7.0%
医学部(16)	18.8%	△9.3%	56.3%	△20.6%	6.3%	▼12.7%	18.8%	▼16.9%
理工学部(169)	4.1%	▼12.2%	56.8%	△24.5%	26.6%	△1.5%	12.4%	▼13.9%
福祉健康科学部(47)	0.0%	▼8.0%	44.7%	▼2.4%	38.3%	△13.0%	17.0%	▼2.5%
合計(460)	12.4%	▼3.6%	51.3%	△13.4%	22.8%	△1.4%	13.5%	▼11.2%

図Ⅲ－２－⑥ 「大分を創る科目」の履修科目数と県内就職希望の関係について

大分を創る科目の履修科目数と県内就職希望の関係(N=437) (人)

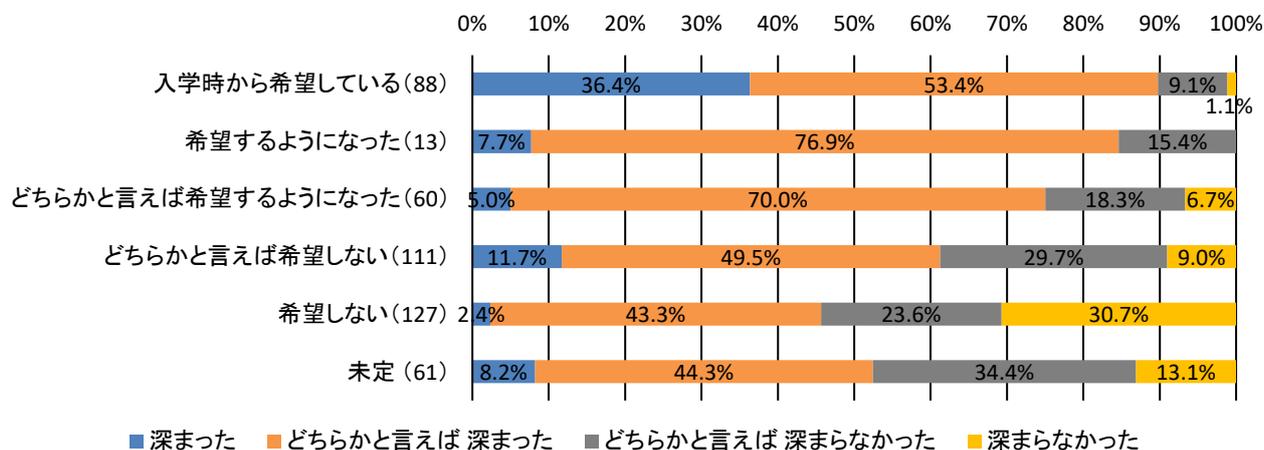


	入学時から希望している		希望するようになった		どちらかと言えば希望するようになった		どちらかと言えば希望しない		希望しない		未定	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
複数科目(333)	65	△7	10	▼14	45	▼22	83	△8	96	▼4	34	▼29
1科目(104)	13	▼56	3	▼8	13	▼33	22	▼15	28	▼33	25	▼12

図Ⅲ－２－⑦ 県内就職希望と大分に就職することについての知識・理解・興味の深まりに関する

割合

県内就職希望と大分を創る科目の履修による県内就職の深まり(N=460)

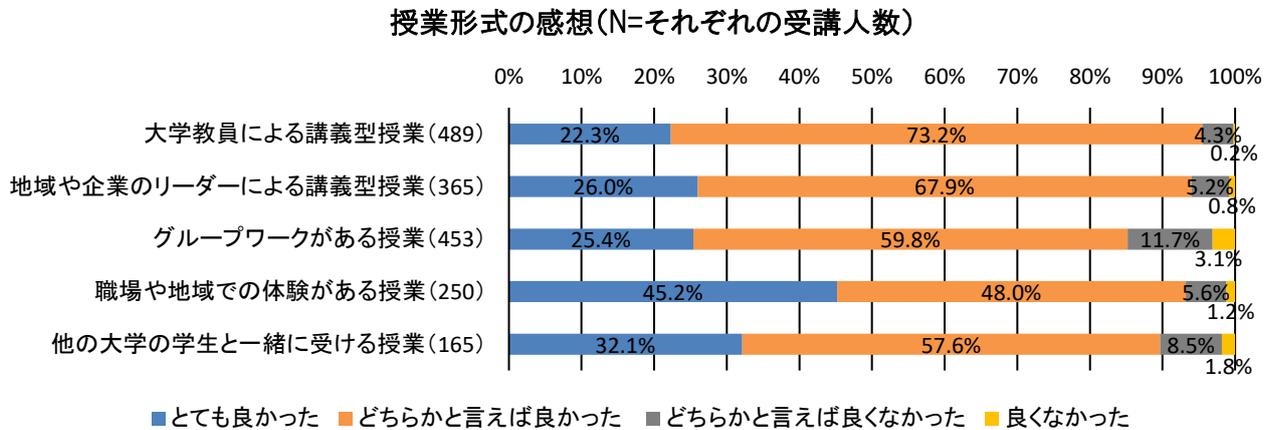


	深まった		どちらかと言えば 深まった		どちらかと言えば 深まらなかった		深まらなかった	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
入学時から希望している(88)	36.4%	△0.3%	53.4%	△12.4%	9.1%	▼0.6%	1.1%	▼12.1%
希望するようになった(13)	7.7%	▼13.7%	76.9%	△31.7%	15.4%	▼6.0%	0.0%	▼11.9%
どちらかと言えば希望するようになった(60)	5.0%	▼4.4%	70.0%	△5.9%	18.3%	△4.2%	6.7%	▼5.8%
どちらかと言えば希望しない(111)	11.7%	△1.2%	49.5%	△9.7%	29.7%	△2.6%	9.0%	▼13.6%
希望しない(127)	2.4%	▼6.6%	43.3%	△24.8%	23.6%	▼3.9%	30.7%	▼14.3%
未定(61)	8.2%	▼5.1%	44.3%	△12.6%	34.4%	△6.9%	13.1%	▼14.4%

IV. 授業形式に関する意識

専門科目・教養科目を含めて2年間の履修を通じて、参加した授業形式に対する学生の受け取り方に関する調査の結果について示したものが図IV-①である。いずれの授業形態においても大きな差異は見受けられない。とくに注視するとすれば、昨年度同様、体験型、あるいは他大学の学生と共に受ける授業については、「とても良かった」とする満足度の高い回答が多めであり、それに較べると、大学教員による講義型授業は満足度の高い回答は低い傾向がある。ただし、「どちらかといえば良かった」まで含めて、満足度をとらえると先に述べたように、地域や企業のリーダーによる講義型あるいは地域や企業での体験を交えた授業の満足度が若干他に比べて高い傾向にあるものの、いずれの形態についても大きな差があるとは言えない。この結果について、他の大学の学生と一緒に受ける授業形式を除いた4つの授業形式について、各学部の状況を示したものが図IV-②-①から図IV-②-④である。本年度においては新型コロナウイルスの影響により全体として未受講者が増加している。職場や地域での体験のある授業については、経済学部、医学部、理工学部ではこの形態の授業を経験していない学生の割合が高い。また昨年度同様、福祉健康科学部の学生は他学部に比べて、地域や企業のリーダーによる講義型の経験が少ない。一方で、経済学部の学生はこの形態の授業を履修する機会が多いことがわかる。グループワークがある授業の経験については、理工学部でやや少ないものの、おおよそすべての学部の学生において履修経験があり、その中でも教育学部、医学部、福祉健康科学部での学生の満足度が高い様子がうかがえる。他の大学の学生と一緒に受ける授業形式については、昨年度から参加学生割合が8%程度減じている中、満足度については、若干その割合を下げたものの、昨年度と同程度の高い水準（履修者のほぼ9割が満足と回答）で推移している状況が読み取れる（図IV-③）。

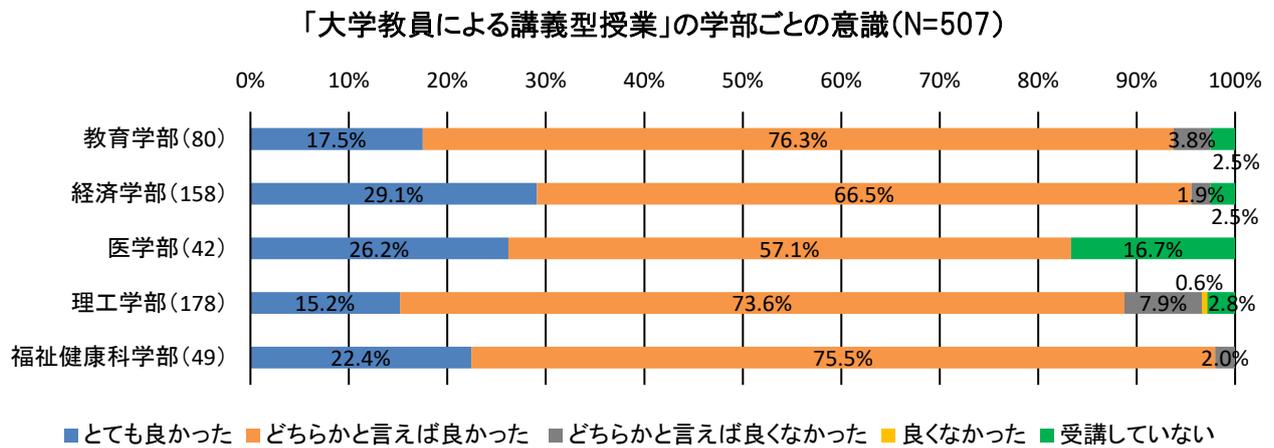
図IV-① 授業形式についての意識の割合



	とても良かった		どちらかと言えば良かった		どちらかと言えば良くなかった		良くなかった	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
大学教員による講義型授業(489)	22.3%	▼0.2%	73.2%	△12.0%	4.3%	▼7.1%	0.2%	▼4.7%
地域や企業のリーダーによる講義型授業(365)	26.0%	△0.3%	67.9%	△9.1%	5.2%	▼5.9%	0.8%	▼3.6%
グループワークがある授業(453)	25.4%	△1.9%	59.8%	△6.6%	11.7%	▼4.8%	3.1%	▼3.7%
職場や地域での体験がある授業(250)	45.2%	△7.0%	48.0%	△0.5%	5.6%	▼4.0%	1.2%	▼3.5%
他の大学の学生と一緒に受ける授業(165)	32.1%	△0.1%	57.6%	△10.8%	8.5%	▼5.7%	1.8%	▼5.1%

図IV-②-①から図IV-②-④ 参加した学生が多かった授業形式について、学部ごとの意識の割合

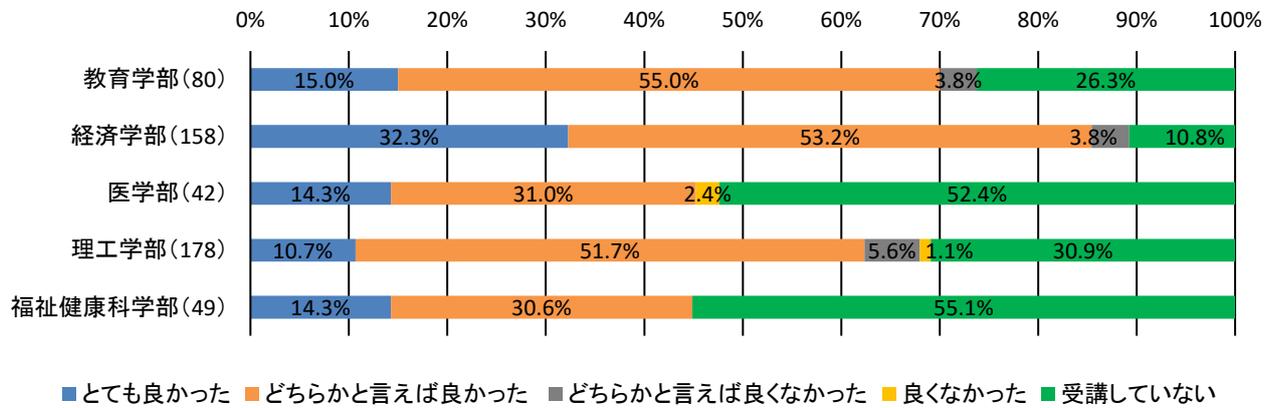
図IV-②-①



	とても良かった		どちらかと言えば良かった		どちらかと言えば良くなかった		良くなかった		受講していない	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
教育学部(80)	17.5%	▼2.8%	76.3%	△18.3%	3.8%	▼11.4%	0.0%	▼5.1%	2.5%	△1.1%
経済学部(158)	29.1%	△4.8%	66.5%	△6.8%	1.9%	▼11.3%	0.0%	▼2.1%	2.5%	△1.8%
医学部(42)	26.2%	△11.7%	57.1%	▼4.3%	0.0%	▼9.0%	0.0%	▼5.5%	16.7%	△7.0%
理工学部(178)	15.2%	▼6.8%	73.6%	△15.2%	7.9%	▼3.7%	0.6%	▼6.1%	2.8%	△1.6%
福祉健康科学部(49)	22.4%	▼8.9%	75.5%	△13.9%	2.0%	▼2.0%	0.0%	▼1.0%	0.0%	▼2.0%
合計(507)	21.5%	▼0.4%	70.6%	△11.2%	4.1%	▼7.0%	0.2%	▼4.6%	3.6%	△0.9%

図IV-②-②

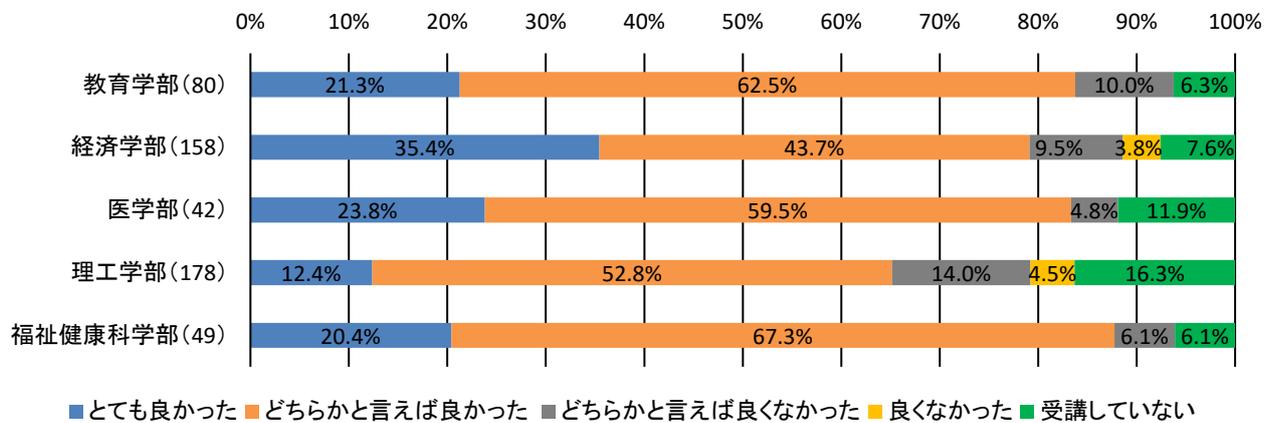
「地域や企業のリーダーによる講義型授業」の学部ごとの意識(N=507)



	とても良かった		どちらかと言えば良かった		どちらかと言えば良くなかった		良くなかった		受講していない	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
教育学部(80)	15.0%	▼2.4%	55.0%	△7.9%	3.8%	▼4.2%	0.0%	▼4.3%	26.3%	△3.1%
経済学部(158)	32.3%	▼2.9%	53.2%	▼2.0%	3.8%	▼1.0%	0.0%	▼2.1%	10.8%	△8.0%
医学部(42)	14.3%	▼0.2%	31.0%	0.0%	0.0%	▼8.3%	2.4%	▼3.1%	52.4%	△11.7%
理工学部(178)	10.7%	▼7.7%	51.7%	△1.9%	5.6%	▼5.3%	1.1%	▼2.0%	30.9%	△13.1%
福祉健康科学部(49)	14.3%	▼0.8%	30.6%	▼7.0%	0.0%	▼7.5%	0.0%	▼2.2%	55.1%	△17.5%
合計(507)	18.7%	▼1.4%	48.9%	△3.2%	3.7%	▼4.9%	0.6%	▼2.8%	28.0%	△5.8%

図IV-②-③

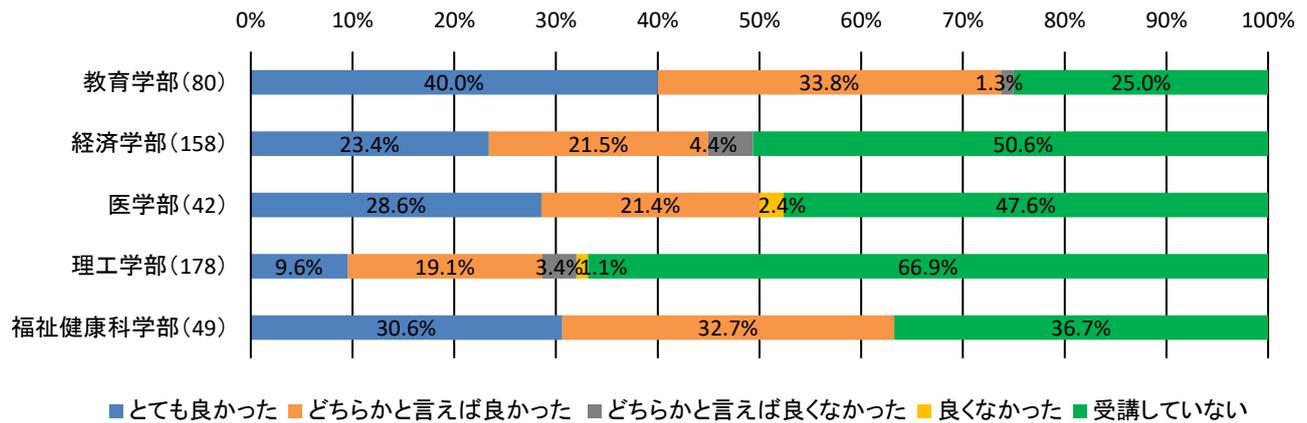
「グループワークがある授業」の学部ごとの意識(N=507)



	とても良かった		どちらかと言えば良かった		どちらかと言えば良くなかった		良くなかった		受講していない	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
教育学部(80)	21.3%	▼10.1%	62.5%	△16.5%	10.0%	▼0.2%	0.0%	▼4.4%	6.3%	▼1.7%
経済学部(158)	35.4%	△11.8%	43.7%	▼5.6%	9.5%	▼6.5%	3.8%	▼2.5%	7.6%	△2.7%
医学部(42)	23.8%	△5.4%	59.5%	△13.2%	4.8%	▼8.8%	0.0%	▼8.2%	11.9%	▼1.7%
理工学部(178)	12.4%	▼8.7%	52.8%	△3.6%	14.0%	▼3.6%	4.5%	▼1.7%	16.3%	△10.4%
福祉健康科学部(49)	20.4%	△8.3%	67.3%	△7.7%	6.1%	▼10.1%	0.0%	▼7.1%	6.1%	△1.0%
合計(507)	22.7%	△1.1%	53.5%	△4.1%	10.5%	▼4.8%	2.8%	▼3.6%	10.7%	△3.4%

図IV-②-④

「職場や地域での体験がある授業」の学部ごとの意識(N=507)

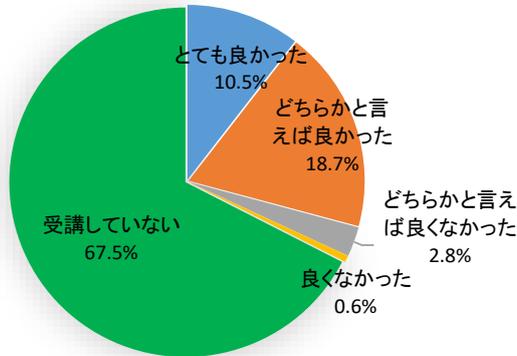


	とても良かった		どちらかと言えば良かった		どちらかと言えば良くなかった		良くなかった		受講していない	
	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比	令和2年度	前年比
教育学部(80)	40.0%	△5.7%	33.8%	△3.9%	1.3%	▼6.7%	0.0%	▼2.9%	25.0%	△0.2%
経済学部(158)	23.4%	▼10.9%	21.5%	▼8.5%	4.4%	▼4.9%	0.0%	▼2.1%	50.6%	△26.3%
医学部(42)	28.6%	△14.5%	21.4%	▼15.9%	0.0%	▼4.2%	2.4%	▼2.5%	47.6%	△8.2%
理工学部(178)	9.6%	▼10.9%	19.1%	▼7.5%	3.4%	▼2.4%	1.1%	▼2.1%	66.9%	△23.0%
福祉健康科学部(49)	30.6%	△5.6%	32.7%	▼2.1%	0.0%	▼3.3%	0.0%	▼1.1%	36.7%	△0.8%
合計(507)	22.3%	▼2.2%	23.7%	▼6.8%	2.8%	▼3.4%	0.6%	▼2.4%	50.7%	△15.0%

図Ⅳ－③

他の大学の学生と一緒に受ける授業についての意識の割合

「他の大学の学生と一緒に受ける授業」
(N=507)



	令和2年度	前年比
とても良かった	10.5%	▼2.6%
どちらかと言えば良かった	18.7%	▼0.5%
どちらかと言えば良くなかった	2.8%	▼3.0%
良くなかった	0.6%	▼2.2%
受講していない	67.5%	△8.4%

考 察

<令和元年度入学生の出身地域（出身高校）別の割合>

令和2年度の調査では、新型コロナウイルスの感染拡大対策の観点から、例年マークシート方式にて行っていたアンケート調査を、Web方式に変更し実施したため、全体の回答率が5割を切っていることに注意が必要である。

この状況下で、本年度は大分県内の高校出身者の回答は40.6%、大分を除く九州地区の高校の出身者からの回答が38.1%であり、回答における九州圏内の高校の出身者の割合は昨年度調査より2.5ポイント程度上昇し、大分県内の高校の出身者が僅かに減少（前年度比0.7ポイント低下）している。

<大分県内への就職希望者の割合>

大分県内への就職希望の状況については、「入学時から希望している」、「希望するようになった」、「どちらかといえば希望するようになった」と回答した学生の割合は34.5%であり、昨年度から6.1ポイント低下している。入学時点での希望状況においても「希望する」あるいは「どちらかといえば希望する」と回答した割合は28.7%と昨年度の31.2%から低下しており、全体として県内就職を希望する学生の割合が低下している状況である。一方で、入学時点との比較で、「どちらかといえば希望しない」、「希望しない」と回答した学生の割合が昨年度の27.4%から23.1ポイント上昇し、50.5%となっている。調査開始以来、入学後の2年間で大分での就職を希望する学生の割合が、そうでない学生の割合よりも小さい状況が続いているが、特に本年度は昨年度よりも県内就職を希望する学生の割合の減少幅よりも希望しない学生の割合の増加幅のほうが大きくなっている。

ちなみに、入学時点での就職先未定の学生の増加傾向は続いているが、今回の2年生時点の調査段階では未定者の割合は昨年度より低下（昨年度比1.6ポイント減）となっており、学生の中では入学後2年を終えた段階では、ある程度進路を考える時期に来ていると考える傾向が定着してきているのかもしれない。ただ、依然として一定数の未定の学生が存在する状況にあるため、これらの学生を今後どのようにして就職（特に県内）への意欲をもたせるか、3年生以降の学部専門科目と連携して、地域活性化にかか

る意識づけを継続的に実施することが引き続き重要である。

<就職する地域の選択にかかる意識>

学生の就職する地域の選択にかかる意識の調査においては、活躍できる場があること、希望する業種の職場があることを選択した学生の割合が昨年度と比較して増えている。一方で出身地をあげている回答は、将来的に仕事がしやすいこと、希望する業種の職場があること、活躍できる場があることに次いで第4位で、その割合自体は昨年度とほぼ変化はない。同時に、企業・職場を選ぶ条件としては、最上位を維持してきた給与/年収の回答が大幅に減少し、昨年度4位であった働きがい最上位となり、その割合が増加している。また年々増加傾向にあった職場の雰囲気重視する回答数が本年度は2位となり、地域理解を深める科目の提供と同時に、地域の企業や産業団体と連携のもと、地域の職場の事業内容や働きがい・職場の雰囲気に至るまでよりきめ細かく学生に伝え、県内就職によってより良い生活を送ることができるイメージを定着させる努力が継続的に重要である。

<「大分を創る科目」の履修による意識>

COC+事業の立ち上げの中で、本学としては、教養科目の中に、地域貢献と地域理解を促進するための新規科目を立ち上げると同時に、既設の教養科目の中から選定して「大分を創る科目」群を設定し、選択必修化することにより、学生への理解促進と意識づけを行うこととした。この「大分を創る科目」の設定により、学生への地域貢献と地域理解への意識づけの効果はあり、これらの科目の履修により、大分に就職することに関する理解・知識・興味を深めたと回答した学生はそうでないと回答した学生よりも多く、また、県内就職について気持ちが傾き始めている学生の層について、これらの科目群の設定による意義・効果を認めることができる。